

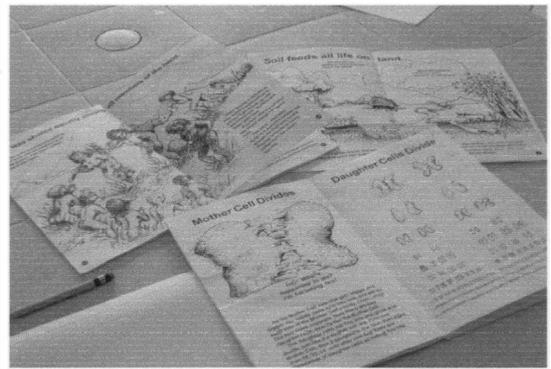
—プロジェクト中間報告—



★モロココミュニティ地域医療推進プロジェクト(中田資金)★
 会員5名(安達・九島・今泉・長橋・山崎)による9月訪問は、PIHC 責任者ナブサさんの名古屋鍼灸研修と日程が重なりましたが、現地は長姉のアビナさん他スタッフが村のヘルスワーカーと協力して活動を続けていて、シギル村の薬草利用講習会など、健康な村づくりへの住民の挑戦を確認できました。ナブサさん帰国後は、鍼灸マッサージ技術研修も再開される予定です。
 (←モロへの偏見と差別の背景を説明するアビナさん)

★ 持続可能な少数民族未就学児童のモスン教育 ★

大幅に遅れているチボリ語併記の教科書作りを、内容を統合し20種類に減らすこと、レムヘレック校の新規開設を見送ることの2点について、事業変更を助成機関「ひろしま・祈りの石国際教育交流財団」に申請し承認を受けました。今後は自主運営財源となる児童・父母の菜園、家禽飼育指導と、新教科書活用のための教師研修に力を入れます。
 (9月に完成した地球の歴史シリーズ→)



★ 山岳部先住民族コミュニティにおける森林再生とアグロフォレストリ・モデル事業 ★

(財)横浜市国際交流協会(YOKE)の助成で4月に開始した事業は、すでに5haのマホガニーの苗木植栽が完了し、15haの果樹苗もその9割を植えつけました。輸送中の傷みで枯れた苗(約4%)の植え替え、苗周りの草刈、施肥などの第1回手入れを11月に予定しています。
 農地や森を奪われ、民族の誇りも失いかけた「先住民族」にとって、単なる環境保全の「森林再生」でなく、近い将来収入源となる果樹などの栽培を組み合わせた「アグロフォレストリ」の実施が重要で、この先住民族支援の方針が、ながーい事業テーマとなりました。スルタンクダラト州で先祖伝来の土地保証を受けた住民組織 DAKCO、その組織化・技術支援をしている PFP と協力して実施中の事業です。

—新プロジェクト計画—

★キアミ地区マラリア撲滅計画★

対象地区と人数：サランガニ州マラパタン町キアミ・シラル・アバンボルールの3地区

96世帯550人(ビラーン民族ほか、カラガン、ムスリム、ビサヤ人も含む)

地域の状況：マラパタン町中心部の保健所や医療機関から、馬・徒歩で3時間以上の距離にある。

マラリア患者数：過去3年間年平均20名の入院を支援。ほとんど全住民に発病の可能性がある。

撲滅計画の概要と経費：

- | | |
|-----------------------------------|----------------|
| ① 感染の疑いがある全住民550人の血液検査経費 | 12万円 |
| ② 水溜りなど蚊の発生箇所クリーン作戦(年12回共同作業食事補助) | 7万円 |
| ③ マラリア患者治療薬 | 8万円 |
| ④ 蚊帳の配布 96世帯に2セットずつ | 10万円 |
| ⑤ 各世帯へ家庭菜園種子5種配布購入費(食生活改善で免疫力強化) | 2万円 |
| | 合計 39万円 |

会としての協力：行政の支援をこれ以上待てないとしてCMBが出してきた要請で、会としては医療支援特別予算を組んで対応したいと思います。
 資金源としては、中古衣料、雑貨、贈答品など寄附物品のバザー、フリーマーケットでの販売を考えています。ご協力お願い致します。

